



2021年7月、京都気候変動適応センターが誕生しました！

ここ数年、気候変動への懸念が世界的に高まっています。地球温暖化を一因とする記録的な猛暑や豪雨が多発しており、この気候変動の影響による生活や健康・財産、事業活動への被害を回避・最小化するための対策（適応策）に取り組む必要があります。日本でも2018年、気候変動適応法が制定されました。この法律に基づいて、全国の自治体で地域気候変動適応センターが設置されています。

京都気候変動適応センターは、地域における気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点として、京都府、京都市、総合地球環境学研究所（地球研）の共同で2021年7月に始動しました。

▶ 京都気候変動適応センターのホームページへは、kccac.jpで検索！またはQRコードで。



京都という長い文化・歴史をもった地域から
社会と文化のあり方を考え、
気候変動問題を探っていくことが、
京都気候変動適応センターのミッションと考えています。



ホームページの内容を紹介します

府民・事業者・自治体関係者のみなさまの多様なニーズに応じた情報を発信していきます。

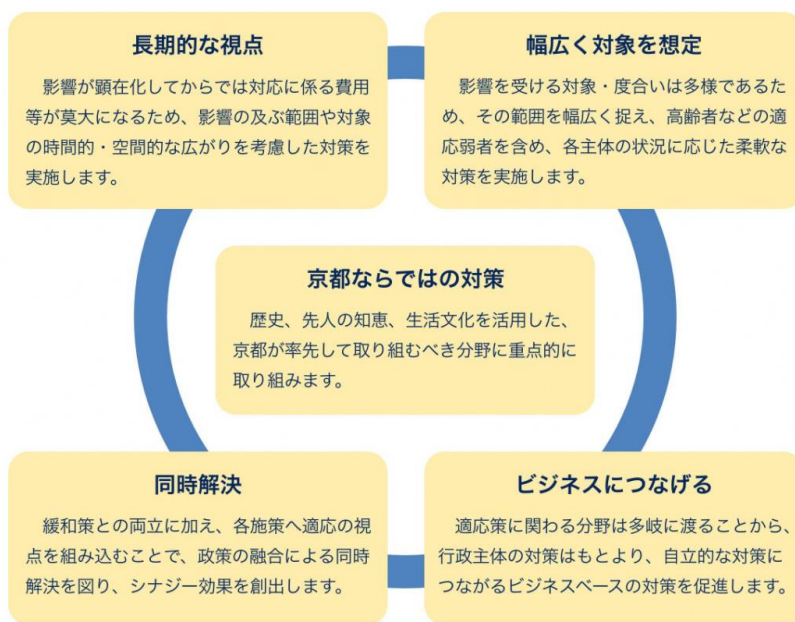
センター長あいさつ



代表 安成 哲三(京都気候変動適応センター長)

今、私たちには、人類文明がひき起こした気候変動と環境変動により「人新世」という地球史の新たな歴史を作っているといわれています。その中で、私たち人類自身がどう立ち向かうべきかが問われています。この問題は、地球社会全体で考えるべきであると同時に、私たちが現実に住んでいる土地、地域で考えていかねばなりません。問題の解決は、単に地球全体でCO₂を抑制すればいいという問題だけではなく、私たちが身近な自然で、かつ長い歴史と文化を持った地域社会の中で、どのような新しい社会がありえるかを、同時に考えていく必要があります。京都府・京都市は、下図にあるような「適応策」における5つの取組の視点を提案していますが、その真ん中に位置づけている「京都ならではの対策」はとても大切です。気候変動の緩和と適応の「両立」の視点も、不可欠であり、この統合的解決(シナジー)なしに、気候変動問題の解決はありえません。京都という長い文化・歴史をもった地域だからこそ、変動する気候と自然の中であるべき社会と文化の視座と知恵を学ぶことができます。すでに顕在化しつつある気候変動の影響に向き合いつつ、人と自然が共生できる持続可能な社会へ向けた適応策を探っていくことが、京都気候変動適応センターのミッションと考えています。

適応策の5つの視点



気候変動について学ぼう

- 1 気候変動ってなに?
[詳しく見る](#)
- 2 気候変動で私たちの暮らしはどう変わるの?
[詳しく見る](#)
- 3 京都でも気候変動の影響があるの?
[詳しく見る](#)
- 4 私たちは気候変動にどう対処していけばいいの?
[詳しく見る](#)
- 5 京都における適応策の推進に向けて
[詳しく見る](#)

中高生向けのわかりやすい解説も…

地球が温くなるのは、CO₂が増えているせいなんだね。



地球温暖化の原因になる気体を、温室効果ガスという。温室効果ガスにはCO₂の他にもいくつかあるんじやが、一番影響が大きいのがCO₂で、石油や石炭などを燃やした時に出てくるんじや。人間は長いこと、電気やガスや車のエネルギーを石油や石炭に頼ってきたから、大気中のCO₂が増えたんじやよ。

▶ 今後の更新にご期待ください!

2021年度は府内約40箇所にヒアリング調査を行いました

京都で生じている、自然生態系、農林水産業、文化・伝統・観光分野における気候変動の影響を把握するため、高等学校、農林水産業や伝統・工芸・寺社・庭園に関わる方々に、普段感じている気候変動影響やその対策、今後不安に思っていること等についてヒアリング調査を行いました。

ヒアリング先、質問項目

▶ 高等学校（右図⑩～⑳）

＜主な質問項目＞

- ・ 自然生態系に関する事項
- ・ 日常生活で感じる気候変動影響

▶ 農林水産業関係機関（右図①～⑮）

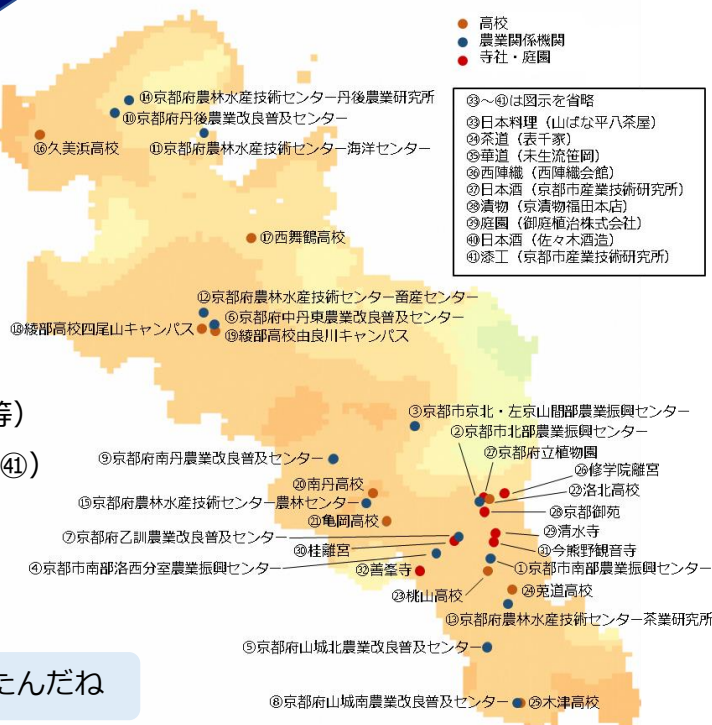
＜主な質問項目＞

- ・ 生産物への影響（品質低下等）
- ・ 作業への影響（熱中症等）
- ・ 生産基盤への影響（ハウスの倒壊等）

▶ 伝統・工芸・寺社・庭園（右図㉑～㉿）

＜主な質問項目＞

- ・ 気候変動影響を感じているか
- ・ 対策を講じているか
- ・ 将来への懸念はあるか



たくさんの人から話を聞いたんだね

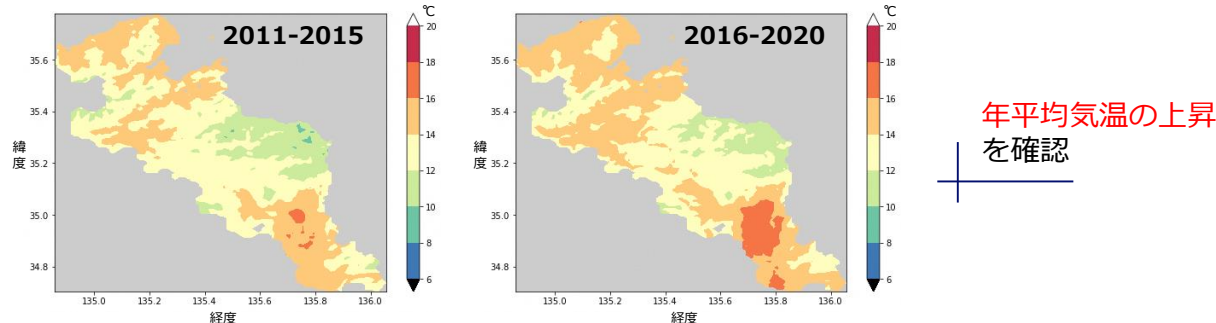


そうじゃよ。非常に多くのことがわかったんじゃ。ありがたいの。わかったことの一部を紹介していくぞ。

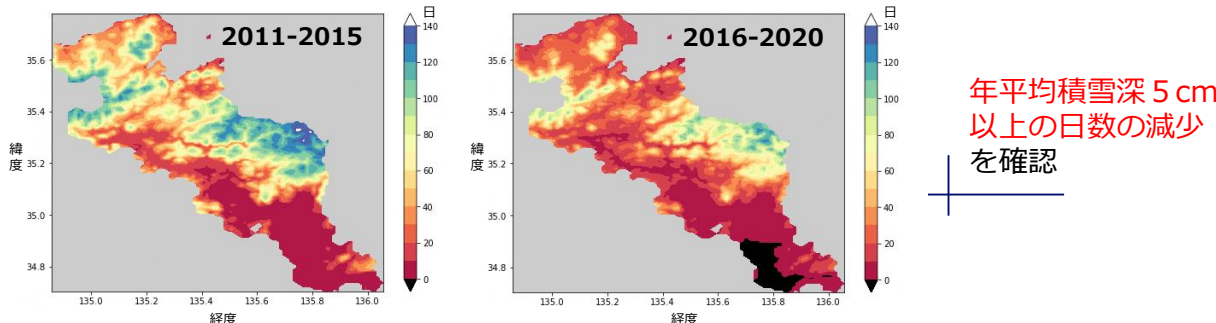
明らかになったこと①

過去5～10年にかけて気候の変化を感じている人が多かった

▶ 年平均気温のデータを用いて2010年代前半と後半の違いを分析



▶ 年平均積雪深5 cm以上の日数を用いて2010年代前半と後半の違いを分析



明らかになったこと②

都市部と山間部が隣接することから、シカなどによる獣害の被害に関する声が多く聞かれた



倒木・土砂災害等の
自然災害の誘発

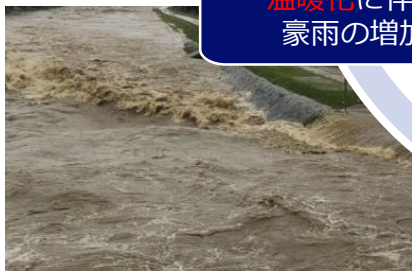
下草の有無により土砂が流れる率が全然違う…
〈善峯寺〉

温暖化による
積雪の減少



冬期のシカ等による
自然植生への食害

シカは腹部に雪がつくのきらって漆の生育地には入ってこなかったが、積雪量が減って入ってくるようになった
〈京都市産業技術研究所〉



温暖化に伴う
豪雨の増加

森林荒廃に伴う
森林生態系劣化



森林及び土壌の
弱体化

温暖化・極端気象（豪雨、台風による強風など）と自然災害、獣害、森林生態系劣化の連鎖的関係の可能性

2022年2月、オンラインシンポジウムを開催しました！

2022年
日時 2月18日(金)
14:00 ~ 16:00

開催方法 オンライン
参加無料・要申込
定員：100名(先着順)
となたても御参加いただけます。

京都でいま、何が起きているのか！？
— 京都における気候変動影響とその対応に向けて —

近頃、地球温暖化を一切とする、記録的な猛暑や豪雨が相次いでおり、この気候変動の影響による生活や健康、財産、事業活動への被害を回避・軽減するために、適切な対応（気候変動）に取り組む必要があります。気候変動を知り、必要な対応を早急に見つけていきましょう。

基調講演
気候変動影響と適応に関する科学的知見
高橋 潔氏
国立環境研究所社会システム領域 副領域長

パネリスト
京都における気候変動影響と適応に関する課題
【パネリスト】
白根 立彦氏 京都大学大学院農学研究科、教授
高橋 潔氏 国立環境研究所社会システム領域 副領域長
平塚 健一氏 京都府立植物園 研究課長
森本 泰裕氏 京都大学 名誉教授、京都府都市化協会 理事長
安成 哲三氏 京都府気候変動適応センター センター長

通訳センターからの報告
京都における気候変動影響 — 自然生態系・農業・伝統文化産業に関するヒアリングでわかったこと
安成 哲三
京都府気候変動適応センター センター長

お申込み
以下のURLから登録して下さい
<https://kccac.jp/symposium/>
■申込 2022年2月17日(木)17:00

国立環境研究所の高橋潔氏から「気候変動影響と適応に関する科学的知見」として、気候変動の影響は地域特性により異なり、地域気候変動適応センターの役割は多様であることなどについてご講演いただきました。京都気候変動適応センター長からは農業への影響の顕在化や京都ならではの気候変動影響など、2021年度のヒアリング調査で分かったことについて報告しました。その後、5名のパネリストで京都における気候変動影響と適応に関する課題について活発に議論しました。

これからもみなさまに多くの情報を発信し、双方向型のイベントも含めて活動を継続します！

シンポジウム当日の様子をホームページでご覧いただけます

発行元：京都気候変動適応センター
〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山457番地4
総合地球環境学研究所内
代表者：安成 哲三（京都気候変動適応センター長）
お問い合わせ・連絡先：contact@kccac.jp

（2022年3月発行）



京都気候変動適応センター
Kyoto Climate Change Adaptation Center